

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25289211

研究課題名(和文) アジアの都市組織の起源, 形成, 変容, 転生に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Origin, Formation, Transformation and Renovation of Urban Tissues in Asia

研究代表者

布野 修司 (FUNO, Shuji)

日本大学・生産工学部・特任教授

研究者番号：50107538

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、都市を遺伝子、細胞、臓器、血管、骨など様々な生体組織からなる有機体に喩えると、コミュニティ組織のような社会集団の編成と対応する、いくつかの要素(建材、部品、部屋・・・)あるいは、いくつかのシステム(躯体、内装、設備・・・)からなる建築物とその集合による都市組織からなると捉え、ますます画一化しつつある現代都市の空間編成に対して、アジアの諸都市の多様な都市組織のあり方を明らかにするものである。

研究成果の概要(英文)： This research is based on the premise that the city is formed by urban tissues (urban fabrics), which are sets of buildings(houses, public facilities...) and open spaces(roads, rivers, ...) supported by infrastructures as an organic body is consist of genes, cells, internal organs, blood vessels, bones and so on. All cities have or had the unique urban tissues according to the historical and ecological conditions of the region.

Focusing urban tissues, that is, prototype of urban house and block formation, my research clarifies the various space formation of urban tissues of Asian cities, which are classified into 3 categories following different urban traditions, that is, Islamic cities, Hindu Cities and Chinese capital cities based on the intensive field studies to reconsider the standardized urban formation of modernized cities in the world.

研究分野：建築計画・都市計画

キーワード：アジア 都市組織 建築類型 ショップハウス 街区

### 1. 研究開始当初の背景

本研究計画は、研究者が1979年以降30年余にわたって実践してきたアジア都市研究をもとにしており、これまで展開してきた多くの研究テーマが関わっている。インドネシア(スラバヤ)のカンポン kampung (都市内集落)についての臨地調査をもとにハウジング計画論を展開した『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究』(学位請求論文(東京大学)1987年、日本建築学会賞(論文賞)1991年)が原点であるが、大きくは都市形成史に関する研究とエコハウス・モデル、エコタウン・モデルの開発に関する研究に分かれる。

都市形成史研究としては、まず、格子状(グリッド)パターンの都市に焦点を当て(チャクラヌガラ(インドネシア)),続いてヒンドゥー都市(ジャイプル,マドゥライ,ヴァーラーナシー(インド)),パクタブル,パタン(ネパール)などについて臨地調査を展開してきた。さらに、インド・イスラーム都市(ラホール,アーメダバード,デリーなど)を対象とし、両者の差異をテーマとしてきた。また、東アジアの都市(北京,台北)について、都市住居と街区組織をテーマにしてきた。それぞれの地域に、それぞれ一定の都市型住宅が成立してきたことを明らかにしたことは、本研究の大きなベースとなっている。

また、1997年から2001年にかけて展開した植民都市に関する研究(布野修司編著:『近代世界システムと植民都市』,京都大学学術出版会2005年、日本都市計画学会論文賞受賞2006年)は、ますます、アジアの諸都市における独自の都市組織のあり方を明らかにする必要性を痛感させることになった。そして、フィリピンおよびラテン・アメリカのスペイン植民都市に関して研究をさらに進化させ、『グリッド都市 スペイン植民都市の起源、形成、変容、転生』(京都大学学術出版会、研究成果公開促進費(2012年度)をまとめたことによって、都市組織のグローバルなあり方についてほぼ見通しをもつことが可能となった。

これまで臨地調査を展開してきた都市は相当数にのぼるが、本研究の開始当初には、アジア都市研究の集大成を試みるのが大きな目標として意識されるようになっていた。

ヒンドゥー都市の系譜については、チャクラヌガラ・ジャイプル・マドゥライという3都市についての臨地調査をもとに、『曼荼羅都市 ヒンドゥー都市の空間理念とその変容』(京都大学学術出版会,2006年)をまとめることができた。また、カトマンズ盆地について“Stupa & Swastika”(Shuji Funo & M.M.Pant, Kyoto University Press+Singapore National

University Press, 2007)を出版する機会を得た。そして、イスラーム都市の系譜については、インド・イスラーム都市としてアーメダバード・ラホール・デリーという3都市についての臨地調査をもとに、『ムガル都市--イスラーム都市の空間変容』(布野修司+山根周共著,京都大学学術出版会,2008年)をまとめた。そして、中国都城の系譜に関する同様の臨地調査をもとにした研究(2010~12年)によって、中国都市の系譜について、およそその骨格を把握するに至った。

すなわち、アジアの都市についての建築学、都市計画学における研究はこれまで拡散的に行われてきており、体系化することで今後の研究展望を示す段階にある、というのが背景にあった。

現在も変わらないが、アジアの諸都市についての欧米における研究蓄積は極めて薄い。チャクラヌガラが全く欧米に知られてこなかったことがそれを示している。もちろん、欧米の研究者もアジアの諸都市について様々な著作を著してきているが、多くは西欧の都市を基準とするステレオタイプの理解に留まっているように思われる。本研究による集大成によって、国内のみならず欧米学会に対しても大きな貢献をなすうると考えていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまで展開してきた都市組織(urban tissues, urban fabric)に関する研究を集大成し、アジアにおける都市組織の起源と成立、その変容と転生のあり方について、一定の型の形成とその変容の系譜を体系的に明らかにすることを目的にしている。特に、「店屋(shop house)」に焦点を当て、その地域類型を系統的に明らかにする。アジアの大都市の多くは、深刻な都市居住問題を抱えており、また、急速にその歴史的特性を失いつつある。歴史的な街並みや街区をどう維持し、保全していくかが問われる一方、新たな都市住宅や居住地のモデルが求められている。本研究の大きな目的は、ますますその固有性を失いつつあるアジア諸都市の都市居住環境の今後のあり方について、世界史的なパースペクティブにおいて、その指針を示すことにある。

### 3. 研究の方法

臨地調査を基本とし、予備調査、補足調査を含めて、一年に1~2都市を詳細調査の対象とする。中国・インドの境界地域(中国南部およびミャンマー)から1~2都市、中国・イスラームの境界地域(モンゴル・新疆ウイグルおよび中央アジア)から1~2都市、イスラーム・インドの境界地域(西北インド・パキスタン)から1~2都市を選んで、比較する。臨地調査における調査内容は、各都市共通とし、これまで積み重ねてきた調査手法をとる。すなわち、都市全体についての基礎的情報

(文献・史料調査、絵図・地図史料、都市計画関連報告書・史料等)を収集整理した上で、都市の形成過程を確認、詳細なベースマップを作成することによって空間構成の全体を分析した上で、各種施設の分布図を作製するとともに、典型的街区を選定、詳細に図面化する。住居類型毎に実測し、ヒヤリングを行うとともに、その変容過程を明らかにする。

本研究を、一貫するものとしてまとめあげるために、以下のA~Cを基礎作業とした。

A アジアの都城に関する文献・資料の収集とリストの作成：文献収集は、各年度継続して行うが、現地での収集とともに、欧米における研究動向も包括的に把握したい。アウトプットとして、「アジア都市研究文献リスト・解題」をまとめ、今後の研究展開に供する。

B 地図資料のインヴェントリーの作成：文献資料の収集と平行して、地図資料については集中的に収集したい。「乾隆京城全図」(1750年)に表現された北京内城における井戸や諸施設の分布のように歴史的資料は可能な限り図化するなど、これまでの蓄積を加えて、一般に利用可能な形(DVD等)にまとめる。

C 街区組織図の作成：これまで調査してきた都市を含めて、また本研究計画で臨地調査を行う都市を中心として、各都市について共通のフォーマット(GIS)で比較可能なかたちにまとめる。建物の用途、階数、構造、・・・など調査項目に基づく施設分布図、住居類型分布図などが基本となる。A,Bによって得られる資料から作製可能な都市も可能な限り含める。そして、最終的なまとめとして、また、詳細調査を行った都市をはじめ文献によってデータの得られる都市の位置づけを明確にするために、以下のD,Eの作業を行う。

D アジア各都市の街区組織と都市住宅の類型化：前近代については、上述のように、大きくイスラーム都市の系譜と中国・インド都城の系譜に分けることができるが、街区組織と都市住宅の類型について、もう少し細かな検討が必要である。街区組織の名称に関わる語彙の分布を明らかにすることにおいて、ある程度のフレームを得ることができるという見通しがある。最終的に、ユーラシア全体について類型と分布図を示す。

E 「店屋」の類型とその分布図の作製：Dのうち、ショップハウスについては東南アジアについてはかなりのデータの蓄積がある。まずまとめる。また、先行して中国全土について、「四合院」と「店屋」の類型と分布をまとめる。そして、続いてヨーロッパとヨーロッパが植民地化した世界を含めて、グローバルな分布図を完成させる。

#### 4. 研究成果

以下、年度毎に研究成果をまとめる。

平成25年度：当初の予定通り、北京・朝陽門地区、西安・旧城地区、開封・学院門社区、南京・荷花塘地区、杭州・姚園寺巷・梅花碑社区について行ってきた調査を整理、補足するとともに、中国都城の系譜についてまとめる作業をおこなった。そして、北京(燕京-上京臨潢府-中都-大都)を対象を絞り、その起源と変容過程を具体的に考えることで、中国都城の起源、その理念と原像、その変容についての基本的な見取図を描くことを先行させ、『大元都市-中国都城の空間理念とその変容』の早期の出版を目標とした。幸い、2014年度の科研費、研究成果公開助成を得ることができ、当初の予定通り刊行することができた(平成27年2月)。

臨地調査は、中国都城の基本モデルを生んだ歴代の古都が置かれてきた中核域ではなく、上述のように、インド都城の系譜との境界地域を意識して周辺地域において行いたい。「店屋」の形式を追いかける形で、東南アジアとの境界域に着目した。具体的には広州について二回の調査を行った。また、四川省の各地に「亭仔脚」(アーケード)をもつ「店屋」を基本形式とする集落の存在を確認し、黄龍溪鎮の調査を行った。マンダレーについては、調査環境が整わず、雲南省の大理、麗江の予備調査を行った。雲南の諸都市については、およそ中国都城の延長として、都市組織のあり方を把握できるという感触を得た。

平成26年度：応募の際の計画では、中国・イスラームの境界地域に焦点を当てる予定であったが、当初予定していた新疆ウイグル地区などについては調査環境が整わないと考え、西安、開封などの回民地区に関する調査をまとめることとした。また、北京の「城中村」(具体的には新大倉地区)を調査することとした。いずれも予定通り行うことができた。

一方、遊牧国家の定着過程については、元中都および元上都、さらにモンゴルのハラホリン(カラコルム)を調査することができた。また、北京に絞るかたちの中国都城の歴史については、予定通り、『大元都市-中国都城の空間理念とその変容』を上梓することができた。『曼荼羅都市・・・ヒンドゥー-都市の空間理念とその変容』『ムガル都市-イスラーム都市の空間変容』と合わせて、アジアの前近代都市について3部作が完結したことになる。

最終的に目標とする『ショップハウスの世界史』については別途作業を進めた。先行して、四合院と店屋の類型と分布をほぼまとめた。

平成27年度：最終年度として、まとめの作業を集中的に行った。

当初の研究計画では、インド都城の系譜とイスラーム都市の境界地域、また、インド都

城の内部にイスラーム的都市組織が入り込んでいる都市に焦点を当てる予定であったが、調査環境が整わないことから、まず、アジアにおける都市組織研究の原点といていいインドネシアのスラバヤについて臨地調査を行った。具体的には、1983～85年に調査を行った2つの同じカンポンについて、基本的に同じフォーマットによって調査を行った。2006年にも同様の調査を実施しており、20年後、30年後の変容を明らかにしたことになる。

また、当初の予定にはなかったが、イスラームの都市組織の具体的な事例を確認すべく、マグリブ（北アフリカ）の諸都市（カイロ、チュニス、スース、カイロワーン、マラケシュ、フェス）を視察、資料収集を行った。

この間、『大元都市』の中国語訳（中国建築工業出版社）を進めつつある。「店屋」という都市住居の形式については、タイについてまとめ、研究成果公開促進助成に採択された。3年間の研究については、ほぼ予定通りに終了することができた。現在、『世界都市史事典』の編集執筆を行っている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計7件)

井上悠紀, 趙冲, 布野修司, 川井操, 南京中華門・門西地区の住居類型とその変化型に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第81巻, 第719号, 2016年1月, pp.83-91

Juan Ramon JIMENEZ VERDEJO, Jesus Alberto PULIDO ARCAS, Shuji FUNO, 'CONSIDERATIONS ON FORMATION AND TRANSFORMATION OF HOUSE TYPES IN THE OLD QUARTER IN CADIZ' カディス旧市街の住宅類型の形成と変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第80巻, 第718号, 2015年12月, pp.2855-2860

Juan Ramon JIMENEZ VERDEJO, Jesus Alberto PULIDO ARCAS, Shuji FUNO, 'CONSIDERATIONS ON URBAN AND BLOCK FORMATION OF THE OLD QUARTER IN CADIZ', 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第80巻, 第713号, 2015年7月, pp.1557-1564

趙冲, 于航, 布野修司, 川井操: 学院門社区（開封旧内城）の住居類型とその変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第80巻, No.710, pp.777 - 784, 2015年4月

J.R. ヒメネス・ベルデホ, 布野修司, 梅谷敬三, ビノンド（マニラ）の街路体系と街区構成に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第80巻, No.709, pp.611-619, 2015年3月

趙冲, 河野菜津美, 布野修司, 漳州旧城・薊城区（福建省）の住居類型とその分布に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第79巻, No.703, pp1863 - 1869, 2014年9月

趙冲, 布野修司, 張鷹, 山田香波, 三坊七巷・朱紫坊（福州, 福建省）の住居類型とその集合形式に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 査読有, 第79巻, No.697, pp589 - 596, 2014年3月

〔学会発表〕(計13件)

川井 操・西出 彩・布野修司: 北京内城・新太倉歴史文化保護区の空間構成とその変容に関する考察 その1 街区構成と街路体系, 日本建築学会学術講演梗概集（東海大学（神奈川県平塚市））E-2分冊, 建築計画, 5614, pp1227 - 1228, 2015.09.04-06

西出 彩・川井 操・布野修司: 北京内城・新太倉歴史文化保護区の空間構成とその変容に関する考察 その2 四合院の雑院化と居住者プロフィール, 日本建築学会学術講演梗概集（東海大学（神奈川県平塚市））E-2分冊, 建築計画, 5615, pp1229 - 1230, 2015.09.04-06

北口 智貴(滋賀県立大)・馬淵 好司・JR・ホアン・ラモン・布野修司: タクロバン(レイテ、フィリピン)・バラングイ 37・シーウォールの空間構成に関する研究 その1 施設分布と居住者のプロフィール, 日本建築学

会学術講演梗概集(東海大学(神奈川県平塚市))E-2分冊,建築計画,5628,pp1255-1256,2015.09.04-06

馬淵 好司(滋賀県立大)・北口 智貴・JR・ホアン・ラモン・布野修司・バランガイ 37・シーウォールの空間構成に関する研究 その2 住居の構成要素と類型,日本建築学会学術講演梗概集(東海大学(神奈川県平塚市))E-2分冊,建築計画,5629,pp1257-1258,2015.09.04-06

成 浩源(滋賀県立大)・J.R.ヒメネス・ベルデホ・布野修司・川井 操:『姑蘇繁華図』に見る清代蘇州の建築類型に関する考察,日本建築学会学術講演梗概集(東海大学(神奈川県平塚市))E-2分冊,建築歴史意匠,9244,pp487-488,2015.09.04-06

Masashi Suwa, Shuji Funo, Chong Zhao, Juan Ramon Jimenez Verdejo: Consideration On Spatial Formation Of Xiguan Dawu (西关大屋) Historical Area In Guanzhou, The 10<sup>th</sup> International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, Hangzhou, China, 2014.10.14-17

藤澤泰平・川井操・小寺磨理子・趙沖・布野修司, 双流県黄龍溪鎮歴史的街区(四川省)の空間構成に関する研究 その1 黄龍溪鎮の街区空間構成とその変容,日本建築学会学術講演梗概集(神戸大学(兵庫県神戸市))E-2分冊,建築計画,5470,pp971-972,2014.09.12-14

川井操・藤澤泰平・小寺磨理子・趙沖・布野修司: 双流県黄龍溪鎮歴史的街区(四川省)の空間構成に関する研究 その2 住居類型と平面構成および街路面部にみるその変容,日本建築学会学術講演梗概集(神戸大学(兵庫県神戸市))E-2分冊,建築計画,5471,pp973-974,2014.09.12-14

馬淵好司・西出彩・趙沖・布野修司・小

寺磨理子・井上悠紀: 南京(中華門・門西地区)の都市空間構成とその変容に関する研究 その1 街路体系と施設分布の変化,日本建築学会学術講演梗概集(神戸大学(兵庫県神戸市))E-2分冊,建築計画,5472,pp975-976,2014.09.12-14

西出彩・布野修司・井上悠紀・小寺磨理子・趙沖・布野修司: 南京(中華門・門西地区)の都市空間構成とその変容に関する研究 その2 住居類型とその変容,日本建築学会学術講演梗概集(神戸大学(兵庫県神戸市))E-2分冊,建築計画,5473,pp977-978,2014.09.12-14

諏訪昌司・呉宝音・趙沖・布野修司: 広州市西関大屋地区(広東省)の空間構成に関する考察その2 住居の空間構成とその変容,日本建築学会学術講演梗概集(神戸大学(兵庫県神戸市))E-2分冊,建築計画,5474,pp979-980,2014.09.12-14

小寺磨理子・井上悠紀・布野修司, 涪陵区大順鎮(重慶市)の空間構成に関する考察,日本建築学会学術講演梗概集(北海道大学(北海道札幌市))E-2分冊,建築計画,5650,2013.08.30-09.01

諏訪昌司・小寺磨理子・井上悠紀・布野修司, 成都市青羊区寛窄巷子(四川省)の空間構成に関する考察,日本建築学会学術講演梗概集(北海道大学(北海道札幌市))E-2分冊,建築計画,5651,2013.08.30-09.01

〔図書〕(計1件)

布野修司: 大元都市 - 中国都城の理念と空間構造 - 京都大学学術出版会 2015年2月, 660頁

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

布野 修司 (FUNO, Shuji)  
日本大学・生産工学部・特任教授  
研究者番号：50107538